やる気発生装置

教室通信 Vol.２５７６
Ｒ６．３．２９
個別指導教室
セカンド・キャンパス
０７５－７１１－０３９９
https://www.second-campus.com/

当塾のカラーと、多様性を考える

きのう生徒さんたちが帰ってから残った仕事をしている時、またも当塾で大学受験をした人たちが突然訪ねてきてくれました。１人は大学でのハードな卒論研究をようやく終え、４月からは大学院で引き続き研究生活を送るということです。教室で受験勉強をしていた当時のことや大学生活の話などしていると瞬く間に時間が経ち、なんと日付が変わるくらいまで話し込んでしまいました。当塾での受験勉強のなかで、人のつながりと勉強に打ち込む環境があった事が良かった、と一番嬉しいことを口を揃えて言ってくれましたので、今なお高揚感のなかで、これを書いている次第です。本当にありがたいことです。

たくさんある他の塾の中で、当塾はどんなカラーを持った、いかなる立ち位置の塾なのか。そのことに考えをめぐらさない日はありません。なんでも揃っている大きな塾とは違いますので、ターゲットを絞り込むことが成功術だ、とはよく言われることです。世の中には「絶対に東大を目指す少数精鋭の塾」「国語の専門塾」「勉強苦手な子の立ち直り塾」など明確なカラーを持った塾がいろいろとあります。当塾にもそれなりのカラーはあるはずですが、なにせ様々な子がいます。小学生から大学生まで、起きてる時間は全て勉強に費やしてるような人から、絶対（？）勉強しようとしない子まで。当塾はこういう子のための塾です！と生徒像をはっきり打ち出して一色に染めていくほうが効率的ではあるだろうし経営的にもプラスじゃないかとは思うんですが、僕はこの多様性そのものも塾のカラーだと感じています。

来てくれる生徒さんたちが共通に向き合う課題として「試験に受かる」ということがありますので、そのためにはこういう方向で勉強すればいいよ！というものはあります。それを目に見える形にして示していくことが塾の大切な役割です。そしてあくまで勉強する場なので、積極的に教室に来て質問をし、集中して学習に向かう人が教室の資源（講師・座席・設備など）を優先的に使えて得をするだろう、というのも当然大切なことだと考えています。ただ、そうでない人はダメだ！ということではありません。ときには別の方向を向いている人がいても、それぞれに輝くところがあるんです。みんながこの場に居ていい、ＯＫな存在であるということ。それが多様性として大切にしたい部分です。

春休みの間に、北海道に行ってきたということで、お土産にいただきました。大学生の間にいろんな土地を訪れてほしいですね。

いっぽう僕は京都に張り付いております。今日は朝のうちに雨が止んで、いいお天気です。気温も上がって、外を歩いていると汗ばむような日差しになりました。

当面の教室予定

3/29(金)
１０：００～１２：００
１６：００～２２：００
3/30(土)
お休みです m(_ _)m
3/31(日)
１６：００～２１：００
4/1(月)～4/4(木)
１６：００～２２：００

※21 時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させて頂きます。
※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。